

第2回 原子力安全に関する社外評価委員会 議事要旨

1. 開催日時：平成27年11月24日（火） 15時00分～17時00分
2. 開催場所：日本原子力発電(株) 本店会議室
3. 出席者：
＜委員＞ 北村委員長、梅津副委員長、竹田委員、大堀委員
＜対応者＞ 村松取締役社長、市村取締役副社長、和智常務取締役、石橋常務取締役

4. 要旨

(1) 自主的安全性向上の取り組み状況について

昨年6月に公表した当社の「原子力の自主的かつ継続的な安全性向上への取り組みについて」の約1年間の進捗状況及びその中から重点項目として①安全文化の継続的改善、②パフォーマンスの改善、③双方向コミュニケーションについて説明を行い、委員からの評価、意見及び指導を受け、今後の取り組みに反映することとした。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 組織文化論の3層モデルを提唱した、マサチューセッツ工科大学名誉教授のE・H・シャイン氏は、一見すると不可解や不合理に見える行動にも背後理由があること、批判や改善勧告などはそこまで理解した上で行うことが重要と言っていることに留意されたい。
- 安全文化には、個々の場面でリーダーシップが大きな影響力を持つ。リーダーシップが働くためには、フォロワーシップも重要である。各職場や各現場のリーダーシップの重要性を浸透していただきたい。
- 双方向コミュニケーションのために設置したコミュニケーターのスキル向上においては、精神的なストレスのマネジメントや基本的な対応方策のトレーニングなども盛り込むことが大事である。
- 双方向コミュニケーションの将来的課題として、立地県以外への適切な情報提供を考える必要がある。
- 双方向コミュニケーションにおいては、地域社会の様々な声を聞くために、産業界の代表者も含む地域のステークホルダーが一堂に会するコミュニケーションの場を設けることが重要である。
- 双方向コミュニケーションとは、単に話しをすることではなく、お互いの仕事の中身にコミュニケーション結果を反映して、もう一歩進んだ、より高いレベルのものにしていくことが重要である。

(2) コンプライアンス・安全文化醸成活動の取り組み状況について

コンプライアンス・安全文化醸成活動の取り組み状況については、安全文化の14項目の要素を踏まえた安全文化醸成のための活動を計画し、その活動を推進しているところであり、自主的安全性向上の取り組みとも関連する部分が多々あることから、委員に説明を行い、意見等を受け、今後の活動に反映することとした。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 安全文化醸成活動については、中身の濃い仕事、納得感、安心感といったモチベーション維持につながるように、仕事の結果だけではなく過程における思いなども聞いて、フォローアップすることが重要である。
- 法令を守る義務感に伴いがちなネガティブな気持ちの一方で、積極的にモチベーションを高く持って、プライドを持って守ることが、会社の大きな損失回避と利益に繋がることを、多くの事例を元に理解されることが重要である。
- 現場において判断に迷ったことや苦労したことの蓄積が重要である。これらを気付き事項として多く聞き出すことで、具体的なコンプライアンス対応ができるようになる。
- 昨今、世間で不祥事（改ざん・偽証）が相次いでいることから、技術者倫理の重要性が再認識されている。現場の原子力の技術者の人達には、コンプライアンスの徹底や本質的な倫理観の向上のために必要なことを考えて頂きたい。
- 技術分野におけるコンプライアンスが益々重要になっていることを踏まえ、原子力の現場の人達が、安全文化醸成活動を少し幅広に考え、汎用性のあるアイデアを出し、適用した成果が、他産業の工事現場などの参考になれば、原子力が多大な貢献をしたことになる。
- コンプライアンス違反は、積極的なアプローチによって無くなっていくことが望ましい。技術者として確実に実施したことのエビデンスを残し、トレーサビリティのある証明を残す時代になっている。そのため、コンプライアンス及び技術者倫理が重要である。原電には、コンプライアンス・安全文化醸成についてもパイオニアになっていくように能動的に考えて頂きたい。
- コンプライアンス・安全文化醸成活動や取り組みで得られる、いろいろなアウトカムの結果だけではなく、そこからの新たな気づきに対してフォローして実施することが重要である。

以上

原子力安全に関する社外評価委員会 委員名簿

	氏名	所属・役職等
委員長	北村 正晴	東北大学名誉教授、(株)テムス研究所所長
副委員長	梅津 光弘	慶應義塾大学商学部 准教授
委員	竹田 敏一	福井大学附属国際原子力工学研究所 原子炉物理学部門 特任教授
委員	大堀 道広	福井大学附属国際原子力工学研究所 原子力構造システム・廃止措置部門 准教授